

英語科部会

研究主題

4 技能を総合的に活用し、
積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

1 主題について

新学習指導要領では、4技能の総合的な活用が謳われている。英語科では昨年度までの研究をさらに深めるため、今年度も4技能を活用しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を主題として設定した。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月25日	第2回総合研究会 研究授業（矢立中） 主題についての話し合い

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月25日(火)
- ・会 場 矢立中学校
- ・題材名 2年A組 Unit 5 A Park or a Parking Area?
- ・授業者 佐々木光明 今野 菜摘

① 授業者から

- ・トピックはギリギリまで悩んだ。多様な意見の出るトピックを知りたい。
- ・前時をもっと長い文の読み取りをしたが、あまり理解できていない生徒が多かった。本時も読み取れていない生徒がまだいた。
- ・ペアの組み方の指示がよく生徒に伝わらず、戸惑わせてしまった。
- ・他のテーマで書くという今日のまとめは良かったのか疑問である。
- ・ReviewやIntroductionは難しかったかもしれない。
- ・ペアで話し合って活動することができないので育てていきたい。

② 協 議

- ・TTで最初に意見を戦わせると生徒もくいついたのではないか。日本語訳に時間がかかり過ぎたので、そこを短縮して英文を書いたり意見を戦わせたりする時間を設けたかった。考えが半分に分かれるトピックにした方が良かった。
- ・機械的に意見を半分に分けた方が良いのか、本当の自分の気持ちを書いた方がよいのかは、ねらいによるのではないか。
- ・まずは、接続詞を理解させることに力を入れた方がよい。今日の授業はレベルが高かった。生徒がすぐに自分の考えを書き始められるのが素晴らしかった。

(2) テーマ研究

小学校外国語活動との接続や連携を図った授業について話し合った。中学校の教員が小学校へ出向いて授業を行っている学校もあった。また、特に授業での交流はないが、英語ノートの

絵や外国語活動で経験してきているゲームを授業で実践している学校もあった。

(3) 指導助言（石井 むつみ 指導主事）

① 授業について

- ・生徒が素直で一生懸命に活動に取り組んでいた。
- ・教材が工夫されていた。視覚に訴える白いシートの活用が良かった。
- ・ウォームアップでは、聞く・話す・書くという流れが見られた。普通は音声のみのウォームアップが多いが、技能の統合が意識されていた。
- ・今何をするのか明確に指示を出してから生徒を動かす。今日のようにカードを使ってペアリングをさせる時は、必要以上に複雑にしないことが大切。
- ・生徒と対話をしながら一方的な指示にならないようにする。TTでの対話やデモンストレーションで見通しをもたせる工夫、生徒の発話を引き出す工夫がほしい。
- ・活動を精選する必要がある。メインの活動がぼやけてしまった。
- ・テーマの設定に気をつけてほしい。生徒にとって身近で、多様な意見を引き出せるテーマが良かった。
- ・生徒は接続詞の用法がまだ十分定着していなかった。生徒のレベルをよく見て定着のための活動と自己表現の活動を設定することが大切である。

② 小・中連携について

- ・小学校での指導方法を参考にしてほしい。キーワードゲームやチャンツ、ゲーム、カードの利用など積極的に取り入れてほしい。
- ・新学習指導要領完全実施に向けてスタートカリキュラムが必要になる。入門期の10時間の計画を今年度中に準備してほしい。
- ・小学校での実践は素晴らしい。たくさん誉める姿勢を見習っていききたい。



【ペアになり自分の考えを伝え合う様子】

③ 4技能の活用について

- ・長文を読み、判断し、自分の意見を書く力を入試までにつけなければいけない。読んで、書いて、発表して終わるのではなく、さらに自分の考えを深めて書くなど、技能の統合による深まりが必要になる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・各学校での小・中連携に関する情報交換をすることができた。小学校で行っているゲームや英語ノートの絵の活用など、自校での実践に生かして行ってほしい。

(2) 課題

- ・今後さらに小・中連携が大切になる。小学校の外国語活動でどのような活動をしているのかを知った上で、中学校でも取り入れていく必要がある。各学校でスタートカリキュラムの作成が求められる。